

平成27年12月15日

石巻市議会議長 安倍 太郎 殿

会 派 名 無会派  
代表者氏名 安倍 太郎

## 調査報告書

調査した概要は次のとおりであります。

### 記

- 1 調査者氏名 安倍 太郎
- 2 調査期間 平成27年11月4日から  
平成27年11月7日まで 4日間
- 3 調査地  
及び調査内容
  - (1) 埼玉県熊谷市  
・スポーツ・文化村整備事業（くまびあ）について
  - (2) 石川県かほく市  
ア かほく市新婚さん住まい応援事業について  
イ かほく市若者マイホーム取得奨励金について
  - (3) 富山県南砺市  
ア 婚活支援事業（A I P 48）について  
イ 定住、移住対策と空き家対策事業について

## 4 目 的

### (1) 埼玉県熊谷市

#### ・スポーツ・文化村整備事業（くまびあ）について

東日本大震災から4年7か月が経過し、仮設住宅から復興住宅等へと自立再生が進む中、平成17年4月の1市6町の合併から10年が経過し、大震災前から懸案であった、老朽化や役目を終える本市の公共施設の整備及び有効活用が喫緊の課題となっている。

熊谷市では役目を終えた公共施設（旧熊谷市立女子高校）の跡地及び施設の有効活用のため、小さな子供たちから高齢者までの幅の広い世代の人々が、生涯にわたってスポーツ・文化に親しむことができ、また、合宿や研修による宿泊も可能な拠点施設として、スポーツ・文化村「くまびあ」を整備し、当該行政に大いに貢献し、着実に実績を残している。

本市においても、市民のスポーツ・文化の振興はもとより、市外から合宿や研修、観光に訪れる交流人口の確保のためにも、その受け入れとなる施設整備が急務となっている。その整備の選択肢のひとつとして、今後、役目を終える公共施設（統廃合による学校施設等）の有効活用を検討する時期を迎え、また、旧6町を拠点とする施設整備の必要性が高まることが予想されるため、先進地である埼玉県熊谷市を視察研修し、熊谷市の当該事業の内容と成果、課題について、調査を行うものである。

### (2) 石川県かほく市

#### ア かほく市新婚さん住まい応援事業について

#### イ かほく市若者マイホーム取得奨励金について

かほく市では、新婚世帯の市内賃貸住宅への入居を促し、将来の市内での持家取得による定住に導くとともに、市内の賑わい創出による地域経済の活性化を図ることを目的として、40歳未満の新婚夫婦が市内の民間賃貸住宅または特定公共賃貸住宅に入居した場合、月額1万円を補助する「新婚さん住まい応援事業」を、また、市内に住宅を新築・購入し生活する人を対象に「若者マイホーム取得奨励金」の制度を設けている。

本市においても、人口減少は深刻な問題であり、定住促進事業に取り組むことは、極めて重要な課題であることから、先進地であるかほく市の取組について、今後の事業推進の参考とする。

### (3) 富山県南砺市

#### ア 婚活支援事業（A I P48）について

#### イ 定住、移住対策と空き家対策事業について

南砺市では、少子化の進展さらには晩婚化、未婚化が同時に進行し大変な状況にな

っており、若者の定住化促進や後継者の育成を図り、これ以上の人口の流出、減少を食い止めるための抜本的対策が必要なことから、平成23年度から独身男女の結婚活動を支援する「あなたと私を結ぶ赤い糸プロジェクトAIP48」を実施している。

本市においても、少子化等による人口減少は深刻な問題であり、少子化等対策事業に取り組むことは、極めて重要な課題であることから、先進地である南砺市の取組について、今後の事業推進の参考とする。

## 5 調査概要

### (1) 埼玉県熊谷市

#### ・スポーツ・文化村整備事業（くまびあ）について

熊谷市は、埼玉県の北部、東京都心から50～70kmに位置し、ほぼ平坦で荒川や利根川の水に恵まれた肥沃な大地と豊かな自然環境を有し、その区域は南北に約20km、東西に約14kmで面積は159,82km<sup>2</sup>、可住地面積は県内第2位である。古くは、中山道の宿場町として栄え、現在も鉄道網と主要幹線道路が集中する交通の要衝。気候的には気温、降水量、日照時間などを総評して「快晴日数日本一」と言われている。

また、平成19年8月16日には、当時の日本最高気温の40.9度を多治見市とともに記録した。人口は200,866人（平成27年4月1日現在）で、平成6年に特例市、平成22年には特定行政庁に移行し、同年埼玉県から「環境みらい都市」に認定された。

スポーツによるまちづくりとして、2019年に開催されるラグビーワールドカップの開催都市に決定。市民へのスポーツ振興と全国大会規模のスポーツイベント（高校ラグビー、高校女子サッカーなどが定着）の誘致を目指す「スポーツによるまちづくりを推進」を重要政策とし、その一環として「スポーツ・文化村」プロジェクトを推進している。

平成25年10月、廃校となった旧熊谷市立女子高校の施設を有効活用した「熊谷市スポーツ・文化村「くまびあ」」がオープンした。熊谷市政は、自立と共生を基本理念に、「人が元気」「まちが元気」「未来をひらく活力都市」を将来像に掲げ、文化産業が発展する元気なまちとして、未来に夢と希望をつなぐ活力あるまちづくりを目指している。

研修事項である、「熊谷市スポーツ・文化村「くまびあ」」について、まず、冒頭に「熊谷市の市政」を紹介する映像を視聴し、その後、熊谷市スポーツ・文化村館長の山崎氏から説明を受け、休憩をはさんで施設の説明、見学を行った。

#### ア 「熊谷市スポーツ・文化村「くまびあ」」開設の経緯

- ・昭和38年4月 熊谷市立女子高等学校開校
- ・平成20年3月 廃校（当時は廃校に対する反対の声が多かった）
- ・平成21年9月 熊谷市立女子高等学校跡地及び施設活用委員会設置  
（庁内の職員で構成）

- ・平成22年5月 熊谷市立女子高等学校跡地及び施設利用構想検討委員会設置  
(議会、関係団体等から意見聴取)
- ・平成23年7月 基本設計(H23.7~H23.11)
- ・平成25年10月 第1期整備分オープン(校舎内の一部改装)
- ・平成27年4月 第2期整備分オープン(校舎内の一部改装(37人宿泊可能な宿所、照明付き人工芝グラウンドなど))
- ・平成27年7月 第3期工事実施設計(宿泊者100人可能とする宿泊棟の整備等。平成28年4月から供用開始予定)

#### イ 「熊谷市スポーツ・文化村「くまびあ」施設概要

子供から高齢者まで幅広い世代の市民が生涯にわたってスポーツや文化に親しむことができる宿泊も可能な「生涯学習センター」として段階的に整備を行っている。「愛称」は、くまびあ。熊谷の「くま」と仲間・友人という意味の「PEER(ぴあ)」を組み合わせ、「楽しく仲間が集う憩いの場所」という意味だそうである。以下、整備概要は、次のとおり。

- ・『第1期整備(平成25年10月オープン)』 約7億円  
 総合管理棟・練習棟：親子ふれあいルーム、料理講習室、音楽練習室、多目的ルーム等  
 体育館：アリーナ、卓球場、柔・剣道場  
 宿泊棟：6室 37人宿泊可能
- ・『第2期整備(平成27年4月オープン)』 約10億円  
 創作展示棟：平和資料展示室、熊谷伝統産業伝承室、市女メモリアルルーム、創作ルーム等  
 人工芝グラウンド：サッカー、ラグビー用グラウンド、夜間照明、防球フェンス、(スポーツ振興くじ助成金活用)  
 テニスコート：2面、夜間照明、防球ネット整備  
 拡張用地整備：多目的グラウンド(ソフトボール、パークゴルフ用)、臨時駐車場
- ・『第3期整備(平成28年度工事予定)』 約20億円  
 宿泊研修棟：宿泊室棟(100人宿泊可能)  
 クラブハウス：更衣室、休憩スペース等  
 その他：駐車場、外溝整備等

#### ウ 「熊谷市スポーツ・文化村「くまびあ」利用概要

利用申請は、その施設ごとに所定の期日まで行うが、宿泊者を優先することから、宿泊者が付帯施設を使用する場合は、宿泊と同時に優先的に使用できる。

利用時間は、午前、午後、夜間の区分で行い、多目的グラウンドは、ナイター設備が無いため午後5時（夏場は午後6時）までとする。また、テニスコートは、時間単位で利用できる。

休館日：毎月第2火曜日、年末年始、その他臨時休館日

一般公開日：毎週水曜日（アリーナ及び卓球場）

その他：食堂「らん」が11：30～14：30まで営業  
宿泊者には、夕・朝食を提供している。

#### エ 「熊谷市スポーツ・文化村「くまびあ」管理体制

熊谷市教育委員会社会教育課が「スポーツ・文化村所長」を兼務している。

管理運営は、業務委託しており、段階的な整備がおおむね終了した時点で、指定管理者制度への移行を考えている。

#### オ 「熊谷市スポーツ・文化村「くまびあ」施設利用状況

	平成25年度	平成26年度	平成27年度（9月まで）
利用者数	21,684人	71,741人	93,062人
宿泊者数	27泊617人	87泊1,733人	65泊1,181人
昼食利用者	4,266人	10,044人	9,254人
使用料収入	2,774,100円	7,857,790円	8,204,250円

#### (2) 石川県かほく市

ア かほく市新婚さん住まい応援事業について

イ かほく市若者マイホーム取得奨励金について

**石川県かほく市の概要**・かほく市は、石川県の中央部に位置し古代には、農業や日本海沿岸部の漁業が生活の糧であり、江戸時代には能登と加賀を結ぶ交通の要衝として宿場町が形成され廻船・水産業が盛んに行われた。明治には織物業が定着し、繊維工業を主要産業として市街化が進み平成16年3月に高松 七塚 宇ノ気の旧3町が合併して人口約3万4千人県内で平成大合併の第一号として誕生した。

#### **かほく市の定住促進事業の概要**・なぜ定住促進施策に取り組んだか・・・背景・

平成17年度の総合計画基本構想の中で平成27年における総人口を約3万6千人と設定「若年層が定住する魅力と活力あるまちづくり」を目指し「児童福祉の充実」「幹線道路ネットワークの整備」「産業振興」に取り組んだ。

平成7年以降、出生者数が死亡者数を大幅に下回る自然動態の減少と18年から34.874人をピークに社会動態は横ばい傾向であるが、道路整備が進み隣接している中核市である金沢市〔46万人都市〕まで車で約30分と近くなり通勤圏が拡大したことにより生活環境が変化して人口が流出する傾向になり かほく市以北の人口

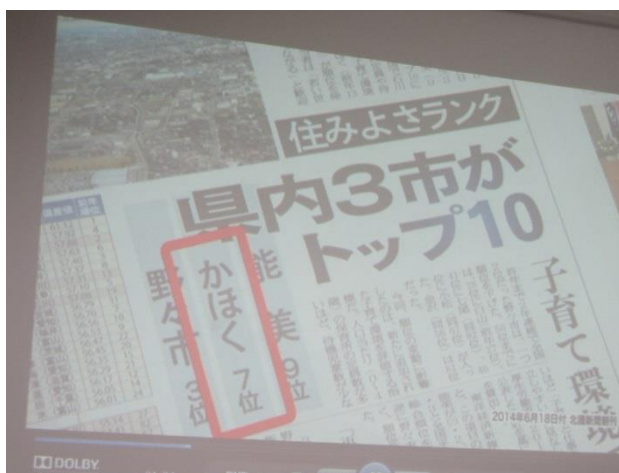
が著しく減少した事に危機感をもった事。平成20年に北陸最大級の「イオンモールかほく」が開業して年間約780万人の来客があり、若者からも注目されているこの機会をとらえ直接若者へ訴求する施策が必要でありこのような状況を鑑み、**目的**・・・人口の流出を抑制し若年層の転入増加を図る対策として定住促進に向けた平成22年度定住人口増加プロジェクト第一弾「かほく市若者マイホーム取得奨励金制度」が創設された。更に

22年度12月には定住人口増加プロジェクトの第二弾として各部長からの推薦により部局横断の係長級を中心とした8名の職員若者中心によるプロジェクトチームが結成され定住促進施策の調査検討が進められ54の提案事業のうち、11の新規拡充事業を市長に提案①若年層の支援②交流機会の創造③住みよさの向上の3つの基本方針が打ち出された。23年3月既存の定住事業である11事業に更に10事業を加えて、21事業を「定住人口プロジェクト」として取りまとめそのうち18事業が実施中であり残り3事業についても実施の検討、調査を行っている。

#### 22年度・定住人口増加プロジェクトの第一弾として

#### (7) 「かほく市若者マイホーム取得奨励金」制度が創設された

**対象**・45歳未満市内で1戸建て住宅を新築〔建売購入も含む〕した場合最大100万円の建築奨励金〔奨励金限度額は借入金の5%以内〕



- a かほく市以外からの転入者限度額80万円
- b かほく市内在住者限度額30万円
- c 市内業者による建築20万円を加算

**市民への周知方法**・市内の建築業者や金融機関への説明会の開催

申請時に市外建築業者への制度周知依頼・市広報、地方紙〔新聞〕市ホームページ、市ケーブルテレビを活用

[写真上 26年住みよさランキング全国第7位] -

27年度3月からは国の地方創生に連動して制度を拡充、若者の定住を図るため更なる地域の活力向上に取り組んでいる。

追加の取り組み内容は・・・

- ・県外に3年以上居住している方がUIJターンの場合50万円の加算
- ・「かほく市新婚さん住まい応援事業補助金」利用世帯に20万円の加算
- ・中古住宅の購入を助成対象に追加

**〔新築の場合と助成金額が異なる、助成額は半分程度〕**

・新たに三世同居・近居に対する拡充

〔10月から〕30万円加算〔27年は一部県費補助あり15万円/件×4件分〕

**成果・・〔建築費助成〕**

平成27年度10月現在申し込み件数57件

26年度末までの累計・奨励金交付状況・451件〔市単費2億3千985万円〕

定住者数1,537人 うち転入者数617人〔40%〕

**〔イ〕「かほく新婚さん住まい応援事業補助金」制度の創設**

40歳未満の新婚世帯が市内の賃貸住宅に入居した場合、月1万円を最大

2年間補助・更に夫婦とも市外からの転入者は、最初の12カ月は月5千円をプラス

但し〔新婚・婚姻届出日から1年未満〕

**成 果・・**家賃助成平成27年度申し込み件数27年10月30日現在 52件

補助金交付状況累計26年度末・・3506万5千円

定住者数393人・〔内転入者数285人約73%〕

**外、主な16の事業内容**は別紙資料添付

総合的な成果の表れとして平成27年において全国790市区中

住みよさランキング全国第9位

(3) 富山県南砺市

沿革

南砺市は、富山県の南西端に位置し、北部は砺波市と小矢部市、東部は富山市、西部は石川県金沢市と白山市、南部は岐阜県飛騨市、白川村と隣接している。南砺市北部の平野では、水田地帯の中に美しい「散居村」の風景が広がり、独特の集落景観を形成している。

平成22年国勢調査では、人口54,724人、世帯数は16,930世帯、平成27年5月1日現在、人口53,549人、世帯数17,181世帯と世帯数は若干増えているが、人口は減少の一途をたどっている。

産業別就業人口の構成は、第一次、二次産業の比率が高くなっているが、平成12年に第2次産業を逆転して以来、第3次産業への就業人口は増加傾向にある。

また平成7年にユネスコ世界遺産に登録された「五箇山の合掌造り集落」「菅沼合掌造り集落」をはじめとする歴史・文化資源や伝統工芸特産品を活用した多彩な観光イベントが四季を通じて市内各地で開催されており、これらの資源と連携し、交流人口の拡大と雇用の創出に努めている。

ア 婚活支援事業（AIP48）について

日本創生会議によると、南砺市の人口の推移は2,010年は54,724人、2,040年には42,130人に減少。高齢化率も2,010年31.1で、2,04

0年は43,9と限界集落に陥ることが判明した。人口増に繋がる対策や減少に歯止めをかける施策を集中的に行うため、従来複数以上の課でおこなっていた事業を一元的に行うことにした。また南砺市が元気になれるようにとのことから、平成23年から婚活支援事業（AIP48）「あなたと私を結ぶ赤い糸プロジェクト」を立ち上げ活動してきた。このプロジェクト推進するお仲人さんの役割をするのが「おせっ会さん」と呼ばれる方々で男女合わせると96名になりペアにすると48ペアになるところから「AIP48」と呼ばれることになった。

婚活応援団なんとおせっ会さんは、登録制であり個人又は各団体から登録を受けている。登録後はセミナーを受けてもらうことになっている、平成27年11月1日現在、会員数117名（女性85名、男性32名）外国会議員2名（特別会員）がいる。婚活クラブなんと会員数は（会員数404名 男性216名、女性188名）会員には出会いの場の提供、婚活セミナー等の開催、男性については、男前講座（話し方について、また髪型について実際に理容師さんに整髪してもらい一番合う髪型に身なりを整える）女性には花嫁講座（化粧の仕方、）等のセミナーを開催している。

出会いの場の提供 月に一回何かしらの行事を開催している。お見合い検索システム（赤い糸探してみたい登録者 男性43名、女性32名）

なんとおせっ会では、お見合い会、事前相談会等開催する。また情報交換会を開催しペアになりそうなカップルをお見合いさせたりすることもある。個人情報であることからホームページでの会員の情報公開はしていない、結婚仲人報奨金は1組につき2万円だが条件が夫婦が1年以上市内に居住することとあるが、未だに請求されていない。

また出会いイベント補助金制度があり、10人以上20人未満10万円から50人以上30万円まで補助金が出る。

会員が成婚し1年以上市内に居住見込みには2万円の商品券が交付される、夫婦どちらかが婚姻届提出時に40歳に達した場合2万円が加算される。

市民が成婚時には、結婚記念品が贈呈される（揮毫額）。結婚カルテを作成しきれ目のない支援をしている、登録者には常に連絡を取り情報を提供している、また1年に数回「なんとおせっ会通信」という情報誌を発行し活動状況報告とイベント情報を公開している。

今後の婚活支援は、長期展望に立った婚活支援（住まいから子育てまで）。安心して暮らせる総合的なサポート（住宅助成制度）。広域的な取り組みが必要（他市町村との連携）

成婚カップルは2015.10.25現在、74組（会員成婚数）その内市内に居住は52組（平成27年度7組）が成立している。

イ 定住、移住対策と空き家対策事業について



日本創生会議によると、南砺市も将来消滅する自治体になりうるものが年々減少する人口から推測される事が判明した。人口減少に対応するには婚活支援事業とともに定住・移住対策と空き家対策事業を充実させることで人口減少に歯止めをかける事更に人口増加をめざし施策を集中的に行う、従来複数以上の課で行っていた事業を一元的におこなうこととした。以下対応について記載する。

(ア) 定住対策

a 定住奨励金

- ・市外から転入 新築 100万円+家族加算(1人5万円)  
中古 60万円+家族加算(1人5万円)
- ・市内での転居 新築 30万円+家族加算なし  
中古 10万円+家族加算なし

\*山間過疎地域については1.5倍又は2倍の補助金交付

- ・過疎法指定地域(五箇三村)2倍
- ・辺地指定、標高200メートル以上、又は1世帯でも200メートル超にある集落は1.5倍

b 民間賃貸住宅居住補助金

- ・新婚世帯(市内転居) 1万円・月(2年間)
- ・市内からの転入世帯 1万円・月(1年間)  
新婚世帯 2万円・月(2年間)2年目は1万円  
学生世帯 2万円・月(2年間)学生以下は含めず

\*山間過疎地域は1.5倍又は2倍

\*市内山間過疎地域から入居の高校生世帯 2万円・月(最長3年間)

c 消滅しない自治体になるための3本の矢

- 1本の矢 ・南砺市三世帯同居世帯奨励補助金
- 2本の矢 ・南砺市三世帯同居推進リフォーム助成金
- 3本の矢 ・南砺市ふるさと回帰転入助成金

d 企業向けでは定住促進雇用対策補助金

5年以上市内に定住した者を新規に正規雇用した企業へ、月額給与の2分の1を24か月助成する

(イ) 空き家対策

a 空き家情報の提供

平成25年実態調査で、284件の情報内162件空き家バンクへ登録誘導

b 空き家バンク 空き家の利活用促進するための補助金制度

賃貸借促進補助金・住宅売却促進補助金・賃貸住宅改修補助金、購入住宅改修等補助金

c 空き家情報発信事業に関する協定書

平成22年6月社団法人富山県住宅取引業協会と南砺市が「空き家情報発信事業に関する協定書」を締結し、空き家バンクの運用を開始した

d 空き家情報登録利用者補助金

空き家バンク利用者相互に補助金制度

\* 空き家バンク登録者 賃貸借促進補助金・住宅売却促進補助金

\* 空き家バンク利用者 賃貸住宅改修等補助金・購入住宅改修等補助金

(ウ) 山間過疎地域支援事業

a 過疎地域自立促進特別措置法に規定する過疎地域

b 辺地に係る公共施設の総合整備のための財政上の特別措置等に関する地域の集落

c 集落の過半数が概ね標高200メートル以上にある集落

d 一戸でも標高200以上にある集落や一戸でも辺地の要件に該当する20世帯未満の集落

(エ) 支援事業

\* 南砺市草刈り作業応援隊派遣事業

山間過疎地域において、自治会等が地域の景観を良好に保つために実施している草刈り作業で人材不足が顕著で支障をきたしている場合、南砺市役所管理職員が応援隊を組織して派遣する。

\* 南砺市住民共同活動応援事業

自治会等が実施する草刈り、江浚え等住民共同活動で不足する労働力を他から受け入れた場合、保険料や燃料費等の経費等を支援する。

\* 南砺市活気に満ちた集落づくりモデル事業

自治会等が自発的なまちづくりに取り組む場合、その計画策定や事業実施にかかる経費を補助する

## 6 所 感

### (1) 埼玉県熊谷市

・スポーツ・文化村整備事業（くまびあ）について

古代、旧石器時代の遺跡から、この地では、2万2千年前から人々が生活し、奈良平安時代には古代の寺院が建立され、中世では、熊谷次郎直実など武蔵武士の根拠地となり、江戸時代には中山道の宿場町として栄え、明治初期には熊谷県の県庁所在地となった歴史ある街、熊谷市である。その後、関東大震災や先の大戦の空襲に見舞われ、その惨禍から復興を成し遂げた熊谷市の住民の底力を感じた。

その最たる例は、今回視察した熊谷市スポーツ・文化村「くまびあ」である。平成2

0年、女子教育の拠点である市立女子高校の廃校に際し、市民の根強い反対運動がある中、熊谷市長富岡清氏の強いリーダーシップのもと「あつさ はればれ 熊谷流」プロジェクトである「あっぱれ！熊谷流」で、市立女子高校の廃校というピンチを「にぎわい創出、幅広い世代の生涯学習、生涯スポーツ振興」というテーマに着目、チャンスに転換された英断に感服した。それを裏付けるかのように、廃校した市立女子高校の思い出を残す「市女メモリアルルーム」。そこには、誇らしげに当時の校旗と制服、卒業アルバムが陳列されていた。また、戦火からの復興と恒久平和を伝える平和資料展示室、熊谷伝統産業伝承室。ご当地出身の著名なスポーツ選手の活躍を紹介する「熊谷スポーツいま、むかし」館には、ラグビー界の名選手で熊谷工業高校出身の堀越選手（元全日本選手）など、コーナーが印象的であった。これらのコーナー、展示室は、学校施設（教室という仕切られたスペースが多数保有）の利点をフルに活用されており、メインテーマである「スポーツ・文化」に各階、フロアごとに親しむことのでき、各施設が融合された素晴らしい施設でありました。当石巻市でも、生涯学習施設の整備や複合文化施設の建設など諸課題が山積しているが、まず整備に当たってのコンセプトをきちんと確立することが重要であると感じた。「施設は無いよりも有るほうがよい。」その議論の前に、その施設がなぜ必要で、今後どのように活用していくのかを明確にして事業に取り組むべきであると痛感した。

武蔵野の大地を見晴るかすように、熊谷市スポーツ・文化村「くまびあ」の施設の壁面に描かれている「ニャオざね」（熊谷市のイメージキャラクター。猫（ニャオ）と熊谷二郎直実（なおざね）に因んで製作）の姿に富岡熊谷市長の直筆で書かれた「くまびあ」の4文字は、力強く、かつ優しさが印象的であった。



## (2) 石川県かほく市

ア かほく市新婚さん住まい応援事業について

イ かほく市若者マイホーム取得奨励金について

若者の定住促進策を推進するにあたり、若者が安定した職場に勤務できること、てごろな家賃で入居できる事、若者がマイホームを取得しやすく安心して子育てができるような生活環境である事が若者の住みたくなるまちであり、その様な若者たちのライフプランをたてる基礎となる考えを取り入れるために、行政が各部長の推薦により部局横断の若者たちの職員中心によるプロジェクトチームを結成して定住促進施策が推進されていた。中でもメディアを活用してまで「若者マイホーム取得奨励金」「新婚さん住まい応援事業補助金」等をテレビCM年間約300万円かけて「若者の住みよさ」をPRしている事は「かほく市の住みよさ」への市の取り組みに熱意と意気込みが感

じられる。そしてこのことこそが国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」基本目標に準じた・「地方における安定した雇用を創出する・地方への新しい人の流れをつくる・若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる・時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守ると共に、地域と地域を連携する」まさに地方創生の先駆けではないかと感じた。

### (3) 富山県南砺市

#### ア 婚活支援事業（A I P 48）について

なんとおせっ会さんの細やかな活動が74組もの成婚に繋がっている、また役所内でも人口増に繋がる対策や人口の減少に歯止めをかける施策を集中的に行うため、従来複数以上の課で行っていた事業を一元的に行う事がワンストップサービスの提供ということで事業推進に大きな役割をはたしているようだ、また婚活支援事業をショッピングセンター内に開設し、利用時間を午前10時から午後7時の時間帯で事前に連絡があれば時間外でも対応してくれる、休業日が毎週火曜日と第四月曜日、土日祝日も営業しており大変利用しやすくなっている、また結婚後どこに住もうかとか、結婚後に新居を求めるときの補助制度等もしっかり対応ができており至れり尽くせりで、市と議会の連携もとれており職員の意気込みをしっかりと感じとられ素晴らしい事業への取り組みでありました。

#### イ 定住、移住対策と空き家対策事業について

定住するためには、住む家と安定した収入を得られる就業が必須条件となる、南砺市は、空き家バンクを設置し情報の提供はもとより賃貸借者両方が納得できる補助制度を立案される等、移住や定住を希望者には南砺市体験ハウスを最長30泊31日まで可能な体験ハウスを2棟整備し1名1泊1,000円で貸し出す。また南砺市へ定住や移住のため引っ越す場合地域ぐるみで引っ越の手伝いをするなど手厚い支援がなされている、都会から移住・定住された場合問題なのが地域の共同作業等が出てきます、その対応が市の職員で組織された草刈り助っ人です、大変頼もしい限りである。

空き家はあるが仏壇がそのままとか、たまに墓参り等で帰省するので賃貸や売却の意志はない事、家屋の生活用品の整理等が困難なことで空き家がそのまま放置されるケースが増えているようである。それでも、日本「住みたい田舎」ベストランキングにおいて第1位に選ばれており、総合でも第7位にランクされており地道な努力が評価され市・職員・地域住民の熱意が熱く伝わってくる視察でありました。

## 7 調査による石巻市への政策提言等

### (1) 埼玉県熊谷市

#### ・スポーツ・文化村整備事業（くまびあ）について

当市は、東日本大震災、少子高齢化や過疎化による学校をはじめとする公共施設の統廃合が深刻な問題となっている。また、人口減、人口の流出も本市の将来に大きな影を落としている。

そこで、交流人口の増加策として、運動公園を核としたスポーツや文化活動のため「宿泊施設」の整備を提言する。

特に、本市の気候は、海洋性の気候であり、東北地方でありながら冬場には雪が少なく、日本海側を中心とする豪雪地帯の地域からの合宿・キャンプの問い合わせ多数あります。また、夏場は、比較的涼しく、関東、関西方面の大学のサークルの合宿地となっております。市民球場は人工芝、ナイター設備完備、良質の天然芝を擁するフットボール場、多目的グラウンドなど、球技の合宿地として好条件である。スポーツにおける合宿は、団体行動をはじめ、組織強化、自己啓発、切磋琢磨する機会となる重要な過程の一つである。早急に整備・検討することを熱望します。

また、雄勝大須地域にある学校は、統合のため役目を終えますが、当該校舎や施設は、まだまだ公共施設として利活用できます。太平洋を見渡すロケーションや、大須地区の漁村の暮らしの体験など、現在小中学校で行われている「花山合宿」のように、宿泊施設を整備して、「山の花山合宿」、「海の雄勝合宿」と銘打って、自然教育の場として活用してはいかがでしょうか。当会派の地元議員も昨年第4回定例会の一般質問でも取り上げております。

現に、石巻市では、網地島において役目を終えた旧網長小学校の施設を診療所として地域貢献されている「網小医院」があります。このようにお手本、成功例がある中、本市の役目を終えた公共施設や各施設の有効活用について英知を最終して、熊谷市スポーツ・文化村「くまびあ」のように子どもたちはじめ多くの市民が集う施設になるよう期待します。

### (2) 石川県かほく市

#### ア かほく市新婚さん住まい応援事業について

#### イ かほく市若者マイホーム取得奨励金について

合併時に人口約17万人震災後は15万人弱になっている。

本市においていまだ復興道半ばとはいえ、人口減少対策は喫緊の課題である復興施策の中でいかにして若者が定住できるまちにできるのか本市も若手職員の横断的なプロジェクトチームを昨年立ち上げているが、かほく市のようにメディアを活用するとか具体的に若者が住みたくなるような定住施策を前面に打ち出しPRを図る事を思慮する。

(3) 富山県南砺市

ア 婚活支援事業（A I P 48）について

市当局と議会と連携が上手くとれており、民間の「なんとおせっ会さん」の活動が大きな役割を果たしているようである。石巻市において職員は通常業務の他に復興業務が大きく負担となっているのが現状です、婚活支援事業は短い期間で成就する事業ではありません、担当職員も次々と変わるようでは事業継続は困難と考えるところである、職員については長期間専門に担当出来る方が望ましく、婚活支援事業の一番の難しいところはいかに婚活者を多く募集する事が出来るかにかかっていることです、職員だけでは人集めは限界が生じて参りますので、南砺市の様におせっ会さんを組織するかNPOに委託し職員と連携を取りながら事業推進を図ることが望ましいと感じるところです。

イ 定住、移住対策と空き家対策事業について

本市は震災復興で業務多忙は理解するところである。震災で津波等の被害のなかった地域は、高齢化が進み空き家が増加傾向にある、空き家バンクを設置し有効な活用すべきと考える、地域のコミュニケーションを考えると人口の減少は地域の崩壊や限界集落に繋がることから「住みやすい地域づくり」「住みたくなるまちづくり」安心して仕事出来る企業の誘致が当面の課題であると考えているところである。

8 調査経費 111,680円

9 添付書類 別添資料のとおり